



## ハチはどうして針があるの、どこに針があるの

### 針をもっているハチは少ない

ハチのなかでも、針をもっているのは、つぎのような限られた種類だけです。たとえば、幼虫のえさにするために、青虫などをとらえるカリウドバチの仲間、ミツバチやアシナガバチ、スズメバチなど、大きな巣を作って、集団で生活するハチの仲間たちです。

カリウドバチは、青虫などをとらえるとき、針でますい薬を注射します。たちまち、ぐたとなった青虫を、竹のつつの中などに運び、卵を産みつけます。卵からかえった幼虫は、ますいで動かなくなっている青虫を、食べることができます。

### 針は卵を産むための管が変化したもの

ミツバチやアシナガバチなどは、自分や自分の巣が攻めきされたとき、自分や巣を守るために、針を使います。針をもっていて、さすのは、必ずメスだけです。ミツバチやアシナガバチの巣にいるのは、女王バチ以外は、ほとんどが卵を産まない、メスのはたらきバチです。針は、もとは卵を産むための産卵管が、使わなくなり変化したものだからです。針は、ハチのおしりの先にあります。女王バチの針は、女王バチどうしが戦うときに使われます。女王バチが卵を産むときは、別の管が使われます。

### 針をもたないハチは、産卵管を使う

ほかの虫の体内に卵を産みつける寄生バチは、長い産卵管をもっていることが多いです。ウマノオバチは、体の長さは2センチメートルなのに、15センチメートルもある産卵管で、木の皮の上から、幹の中にいるカミキリムシの幼虫に卵を産みつけます。

(監修・中山 周平)

